



「市民が主役のまちづくり」 のさらなる進展を

新年明けましておめでとございませう。皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年5月、新元号となる「令和」を迎え、新たな時代の幕が明けました。本市におきましても、「敦賀再生」から「敦賀躍進」に向けて、敦賀の新たな門出となるよう、市民が主役のまちづくりを全力で取り組んでまいります。

昨年を振り返って

まちづくりにつきましては、市政運営の羅針盤となる「敦賀市再興プラン」に基づき取り組みを進めており、現在では、その実施計画の施策全てに着手しております。その中でも、昨年は、本市の長年の懸案であった、笙の川の治水対策における、来迎寺橋の撤去・仮設歩道橋の設置完了をはじめ、都市計画道路 岡山松陵線の供用開始や第2産業団地の一部区域への進出企業決定など、市の重要課題を一つ一つ着実に進めてまいりました。

また、開港120周年を迎えた敦賀港では、海上自衛隊の護衛艦「かが」が寄港し、県内外から2万3千人を超える

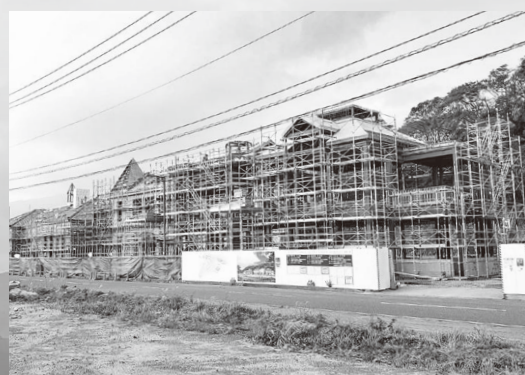
方々にご来場いただきました。さらに4回目となるダイヤモンドプリンセスの寄港では、歓迎イベントが市内各所で行われるなど、「港まち敦賀」らしいにぎわいを市民の皆様とともに、つくり出すことができました。

新たな年に向けて

本年は、「敦賀市再興プラン」の総仕上げの年となります。市民の皆様が安心して暮らせるよう「市民が主役のまちづくり」をさらに押し進め、目に見える形で成果をお示しできるよう取り組んでまいりますので、さらなるお力添えを賜りますよう、お願いいたします。

新幹線開業に向けて

北陸新幹線の敦賀開業が3年後に迫り、新幹線駅舎や、車両基地などの新幹線工事が最盛期を迎えております。本市としても、敦賀駅西側の開発や、駅東側における駅前広場の整備、さらに国道8号空間の美装化など、敦賀駅周辺や、中心市街地のさらなる魅力向上に向けて取り組んでまいります。



▲令和2年秋のオープンに向けて整備を進める新たな「人道の港 敦賀ムゼウム」

「人道の港敦賀」の発信

金ヶ崎周辺においては、平和の大切さ、命の尊さを伝える施設「人道の港 敦賀ムゼウム」の移転拡充を進めています。新たなムゼウムは、ポーランド孤児やユダヤ難民たちが上陸した際に目にした、当時の敦賀港にあった象徴的な建物4棟を復元し、ポーランド孤児上陸100周年、ユダヤ難民上陸80周年を迎える令和2年度にリニューアルオープンいたします。さらに、東京オリンピック・パラリンピックでは、ポーランド共和国のホス

▲新幹線駅舎の整備が進められている駅東側の様子
(写真提供：株式会社嶺南ケーブルネットワーク)

トタウンとして、選手団を本市にお迎えし、市民の皆様とともに様々な交流事業を実施いたします。

この記念すべき年を契機として、より多くの方々と交流を深め、オンリーワンの地域資源である「人道の港 敦賀」を国内外に向けて積極的に発信し、本市を代表するシンボルとなるよう取り組んでまいります。

産業構造の複軸化と 調和型水素社会の形成

本市では、新たな産業政策・エネルギー政策として、地場産業を強化し、周辺地域の産業との間で製品等のサプライチェーンを構築する「産業構造の複軸化」、新しいエネルギーとして水素を活用し、そのサプライチェーンを構築する「エネルギーの多元化」に取り組んでいます。

昨年までに、補助金により地元企



▲敦賀市公設地方卸売市場内に開所した再生可能エネルギー由来水素ステーション

業等の研究開発・技術開発を支援しており、各企業において新たな製品の商用化に向けた研究開発等が進められているとともに、公設卸売市場に再生エネルギー活用が設置され、水素エネルギー活用の実証実験が昨年12月25日からスタートしています。本年は、これらの取り組みをさらに加速させ、将来的には、原子力産業と並ぶ新たな産業の創出・複軸化やエネルギーの多元化という目的を果たし、『夢と希望に満ちた地方都市 敦賀』の基盤づくりに取り組めます。

教育・子育て支援、 移住定住促進に向けて

子育て環境日本一を目指した取り組みとして、病児・病後児保育施設の新設や児童クラブの改築、また、全国的な小一貫教育の実施等を進めており、令和3年度には、公立では県内初となる施設一体型小中一貫校である「角鹿小中学校」が開校することとなります。加えて、東浦小中学校に「小規模特認校制度」を県内で初めて導入し、市内全域から児童生徒を募集し、東浦地区の豊かな自然の中で少人数のよさを生かしたきめ細かな教育に取り組みむなど、特色ある教育環境を整備していきます。

これらの取り組みにより、子育て世代が安心して暮らし、次世代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、

教育・子育て支援のさらなる充実を図り、子育て環境日本一の実現や子育て世帯から選ばれる、誰もが「住みたくなるまち敦賀」のまちづくりを進めてまいります。

市民が主役のまちづくりの実現

私が目標とする、誰もが「住みたくなるまち敦賀」の実現に向け、職員と一丸となり、様々な施策に取り組んでおりますが、この目標を達成するためには、「市民が主役のまちづくり」を実践していくことが不可欠であると考えております。

そのためには、引き続き、市民の皆様と膝を交えて語り合う「ざぶとん会」や区長会との意見交換など、市民の皆様の声に耳を傾け、市民目線の市政運営に努めてまいります。

本年は、「子孫繁栄」を象徴する鼠年でございます。将来の敦賀を担う子どもたちをはじめ、全ての方々が安心して明るく元気に住み続けていけるまちを、市民の皆様とともに築いてまいりますので、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年が市民の皆様にとりまして、素晴らしい一年になりますことを心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

敦賀市長

洲上隆信